

令和3年度 事業報告書



株式会社 日電工業

デイサービスセンター長生東

1. 事業実績

(1) 令和3年度 利用実績（稼働率）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用者数(人)	309	293	335	353	331	359	364	352	340	301	350	378	4,065
平均利用者数(人)	14.0	14.0	15.2	15.3	15.8	16.3	16.5	16.8	17.0	15.1	17.5	16.4	189.9
稼働率	78%	78%	85%	85%	88%	91%	92%	93%	94%	84%	97%	91%	88%

・年間平均稼働率は前々年度79%、前年度83%から今年度は88%と上昇している。

一般的に通所介護は稼働率が80%を超えると安定的な運営ができていると言われており、現状の稼働率を保てるよう努力をしていきたい。

1年間の推移をみても特に季節による稼働率の増減やコロナウィルス感染者数の第4波（5月）第5波（8月）の影響も見られなかった。

(2) 登録利用者の男女・介護度の状況（令和4年3月現在）

	申請中	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男(人)	0	0	0	2	3	5	0	1	11
女(人)	0	1	3	8	5	7	2	1	27
合計(人)	0	1	3	10	8	12	2	2	38

・平均介護度（要支援は除く）は2.35。前年度は2.37だったため、若干平均介護度は下がった。

女性利用者が全体の71%と比率は高いが。前年度が82%だったため、男性利用者が増えている傾向である。

(3) 圏域ごとの利用者数と割合（令和4年3月現在）

	ほんのう	ちゅうおう	もばら	みなみ	白子町	長生村	合計
人数(人)	19	12	5	2	0	0	38
割合	48%	30%	13%	5%	0%	0%	95%

・施設所在地である『ほんのう地区』の利用者が48%と半数をしめている。

今後も地域密着型施設の特色が生かしやすい近隣の地区での利用者を積極的に受け入れていく。

(4) 取引先の居宅介護支援事業所（令和4年3月現在）

事業所名	人数	事業所名	人数
居宅介護支援事業所長生東	7	福祉の相談室花見川	1
ボーソーヒルズ居宅支援事業所	3	茂原市ほんほう地域包括支援センター	1
ケアプランここね	3	モルゲンケアプラン	1
グッドケア居宅介護支援事業所	2	ヤックスケアセンター大網	1
介護老人保健施設つくも苑	2	ヤックスケアセンター茂原	1
居宅介護支援センター睦沢園	2	リンクス居宅介護支援事業所大網白里	1
あおばケアプランサービス	1	リンクス居宅介護支援事業所	1
いきいきケアサポート居宅介護支援事	1	居宅介護支援センター光風荘	1
居宅介護支援事業所銀のカーネーション	1	居宅介護支援センター実恵園	1
マーチン介護サービス東金	1	居宅介護支援センター真名実恵園	1
ケアプランすまいる	1	居宅介護支援事業所ぶらんどーる	1
ケアプランセンターはまひるがお	1	茂原訪問看護ステーション	1
ケアプランだるまさん	1		

・25事業所との取引をおこなっている。前年度が21事業所との取引だったが、ケアマネジャー退職に伴い他法人への引継ぎで取引事業所がばらけたことが増加の要因である。また、同一法人である居宅介護支援事業所長生東からの紹介率が上がっている。理由は居宅介護支援を依頼される時点で本人家族が同一法人のデイサービス利用の意向であることが多く、居宅のケースに関しても本納区域の受け入れを積極的に進めていることも要因となっている。

(5) ヒヤリハット・事故・相談苦情

(Ⅰ) ヒヤリハット

- ・毎月の職員会議で1ヵ月の内に挙げたヒヤリハットを検証し、生活相談員、介護職員、看護職員の他職種で再発防止策を検討している。

- 内容
- ・利用者が一人で外に出てしまい出たところで職員が気付いた
 - ・塩分制限の利用者に味噌汁を出してしまった
 - ・飲ませたと思った薬がごみ箱に捨てられていた
 - ・外での歩行訓練中に蜂が近づいてきた
 - ・送迎時に携帯電話を忘れて必要時に連絡がとれなかった
 - ・利用者が送迎中にシートベルトを外してしまい気づかなかった
 - ・ベッドの解除バーが固定されていなかった

(Ⅱ) 事故

送迎車両での事故 0件

外傷0件

転倒2件

- その他
- ・請求間違い 令和3年5月～令和3年12月まで基本単価を間違えて請求していた。未収額は180,000円強。その内本人負担額は75,238円であり家族に謝罪し受け入れていただいた。過誤請求、再請求をおこなった。

(Ⅲ) 相談・苦情

利用者及び家族からの相談や苦情に関してヒヤリハット同様に職員会議にて職員間で共有して対応を検討している。

- 内容
- ・新しい利用者が入ったときに紹介がない（利用者）
 - ・送り時に利用中の報告がなかった（家族）
 - ・マスクをしていない利用者がある（利用者）
 - ・迎えが遅い（家族）
 - ・帰宅時パットをしていなかったで家で尿漏れをしてしまった（家族）
 - ・帰宅前に大きいパットに替えてないことが2回続いたので床ずれができてしまった

2. 職員研修

月に1回職員研修を行っている。(別紙参照)

3. 避難訓練

9月(火事想定) 3月(地震大津波警報想定)に避難訓練を行った。



4. 地域密着型サービスとして地域に向けた活動

地域のごみゼロ運動もコロナウィルス予防のため中止になり、学校への雑巾の寄付も現在は中止している。

ボランティアの受け入れも中止しているため、地域とのつながりが持てておらず、今後はウィズコロナの考え方でどのように地域に向けた活動が行えるかを検討していく。

5. コロナウィルスに対する対応

- ・1月20日利用者家族がコロナウィルス陽性となり休業

〈経過〉1/19 18:35 利用者家族から電話があり、自分がコロナ要請になったとの報告。対応について保健所に電話するがはず1/20の営業は見合わせる事とし、利用予定者及び担当ケアマネジャーへ電話で伝えた。

1/20 当該利用者PCR検査の結果が陰性のため1/21より営業再開した。

陽性となった家族とは別居しており手前数日は1回同じ車で買い物に行っただけであり、その際マスク着用し車も窓を開けていたとのことで営業再開を判断した。

経過の中での課題は保険者(茂原市)や保健所は対応に関して聞くが、指示は出さず事業所で判断するようにとの回答だったため、事前に想定したうえで判断も迅速に下せる準備をしておくべきだった。

また、状況を他利用者に伝えた際に「誰が陽性なんだ?」「自分はその人と話したか?」等、聞かれプライバシーのため具体的な名前は伝えられないことに不安から怒られてしまうことがあった。

5. 総括

前年度に白子町の総合事業から撤退し、本格的に茂原市住民のみを対象としたサービスとなった。

茂原市の中でも施設の所在地域である『ほんのう地域』の利用者が約半数とり、より地域密着型通所介護としての役割を発揮しやすい環境となった。

今後も積極的に施設が生活圏域に含まれる住民に対して積極的にサービスを提供していきたい。

続くコロナ渦において住民を取り巻く地域資源との新たなネットワークづくりに二の足を踏んでしまい、その間に近隣の小学校の校長先生や駐在さん、地域包括支援センターの職員にも変更があり、来年度以降改めての関係づくりを行っていく必要がある。

感染状況には大きな波があるが、その時できる地域との関わり方を模索していく。

運営においては安定した稼働率で推移しており現在の状態を維持できるよう、来年度以降もサービスの質の確保はもちろん、地域とのつながりを意識して事業活動を行っていく。

長生東 研修実施記録		令和3年度
研修名	参加者	開催日時
地域密着型通所介護における制度改正について 主催：茂原市地域密着型通所介護協議会	林	4月26日
介護現場におけるハラスメントについて	並木・佐久間・佐々木・丸島	4月28日
医療・介護・福祉の連携について（第2回） 主催：株式会社いこい	林 田中	5月20日
介護保険制度における地域密着型通所介護について	並木・佐久間・佐々木・丸島・岩瀬・上代	5月26日
通所介護事業における社会参加研修 主催：（社）日本単独居宅介護支援事業所協会	林	6月24日
機能訓練について	並木・佐久間・佐々木・丸島・岩瀬・上代	7月29日
専門職と学ぶターミナルケア 1部 ／長生郡市訪問介護協議会 主催	田中	8月10日
専門職と学ぶターミナルケア 2部 ／長生郡市訪問介護協議会 主催	田中	9月14日
個人情報・プライバシー保護について	並木・佐久間・佐々木・丸島・岩瀬・上代	8月31日
虐待について 価値観について	並木・佐久間・佐々木・丸島・岩瀬・上代	9月28日
身体拘束 職業倫理について	並木・佐久間・佐々木・丸島・上代	10月26日
事故防止・緊急時対応について	並木・佐久間・佐々木・丸島・岩瀬・上代	11月26日
非常災害時の対応・感染症について	並木・佐久間・佐々木・丸島・岩瀬・上代	12月22日
事故防止再発防止、安全対策について	並木・佐久間・佐々木・岩瀬・上代	1月27日
認知症とその対応について	並木・佐久間・佐々木・丸島・上代	2月15日
安全運転 送迎サービスについて	並木・佐久間・佐々木・上代	3月30日